

銀座発
都心型協働システムモデル

銀座発 都心型協働システムモデル

二〇一〇年三月

2010年3月

特定非営利活動法人 NPOサポートセンター



contents

第1章 | 都心型協働システムのモデル構築に向けて

中央区の協働のシステム構築に向けて	4
協働推進に向けた「4つの提案」と協働のイメージ	5
中央区の協働のイメージ図	6

第2章 | 銀座ビル屋上発 協働で広がる学びの輪

都心型協働のシステム構築を目指して	8
「ACA コンソーシアム」構成団体	9
事業概要	10
「都市農園ふれあいマイスター」養成講座	12
「花とミツバチの絵コンクール」写生会	17
「花とミツバチの絵コンクール」絵画展・表彰式	20

第3章 | 協働のシステムを活かす <3つの協働提案>

協働提案1 公立小・中学校での「屋上菜園クラブ」事業	27
協働提案2 障がい児(者)と健常者が育む 新しい友情の輪	28
協働提案3 「都市と環境をテーマにした絵画教室&絵画展」事業	29

第1章 都心型協働システムの モデル構築に向けて



第1章 都心型協働システムの モデル構築に向けて

近年、社会の課題解決や地域の再生、新しいコミュニティの創造の手法として、NPO を軸とした協働事業に期待が寄せられています。東京の中心に位置する中央区においても、「都心型協働社会」の実現に向けて、新しい仕組みづくりが検討されてきました。

協働事業を一層促進するために、2008 年度に協働推進会議を立ち上げてから、さまざまな議論を重ね、2009 年 10 月に「中央区協働推進会議報告書」が提出されました。報告書では、協働の推進に向けた「4 つの提案」が示され、協働のイメージが公表されました。

中央区の協働のシステム構築に向けて

中央区の協働推進の現状

「中央区協働推進会議報告書」にも示されている通り、中央区の定住人口は、この 12 年間で 4 万人増え、2009 年 10 月には、約 11 万 3,000 人と急激に増加しています。このような急激な人口の増加は、近年の社会経済情勢の変化に加え、区民の多様なニーズや価値観の広がりを一層加速させるとともに、これまで住民による強い地縁で結ばれてきた町会・自治会への未加入者の増加など、住民どうしの連帯感が希薄化する傾向にあります。また役員等の高齢化やなり手不足は、町会等の共助機能の低下を招くなど、新たな課題を抱えているのが現状です。地域の課題がますます多様化する中で、区民一人ひとりの多様なニーズや価値観にきめ細かく対応していくためには、行政の力だけでは限界があります。

このように地域社会を取り巻く環境が大きく変化する中、誰もがいきいきとした暮らしやすいまちをつくるためには、子育てや介護、環境保全、安全・安心など、多くの課題に対して、町会・自治会をはじめ、NPO 法人・ボランティア団体をはじめとする市民活動団体、企業などと区が力を合わせて取り組んでいく「協働」の推進が求められています。

中央区の協働推進の課題

中央区において、長い歴史や豊かな文化の土壌に根ざして、多くの事業所や繁華街に集う昼間人口を効果的に活用し、定住している住民との協力により、創意に満ちたさまざまな活動を展開していく「都心型協働社会」の実現が望まれます。

そのため、従来から中央区の地域活動を支えてきた地域コミュニティの核である町会・自治会との協働活動の経緯や実績を重視しながら、ボランティア活動、さらには NPO や市民活動などの新しい社会活動との地域社会ネットワークを構築し、多様で活力ある開かれた地域活動へと発展させていく必要があると考えられます。 「中央区協働推進会議報告書」より抜粋

協働推進に向けた「4つの提案」と協働のイメージ

中央区協働推進会議から出された「4つの提案」や、23の工程による「協働のイメージ（8ページ参照）」を受け、区では、都心型協働社会の実現に向けて、2010年4月から、区と社会貢献活動団体をつなぐ中間支援拠点を整備し、協働の普及促進に力を入れていくことになりました。

中間支援拠点「協働ステーション」を中心とした協働のイメージは、協働を始める前に関係団体との話し合いの場としてプラットフォームを形成する、他に例をみない画期的な手法として大きな期待が寄せられています。

〔1〕中間支援のあり方

区と社会貢献活動団体をつなぐ「中間支援拠点」を整備し、協働の普及促進を図ります。

〔2〕協働の仕組みづくり

協働事業の提案を受け入れる体制を整備します。募集形態は、自由提案と課題設定を併用し、中間支援拠点や第三者審査機関を有効に活用します。

〔3〕選定・評価方法

公正な評価を行うため、協働事業選定基準や協働事業評価基準を作成し、計画-実施-評価-改善のマネジメント・サイクルのもとで、新たな事業実施に向けて有効に機能する評価を行います。

〔4〕協働のための人材育成方法

積極的・主体的に地域の課題に取り組んでいく人材の育成を行います。

中央区の協働事例

銀座 Blossam・ビーガーデン・プロジェクト

中央区の初めての協働事例として、2009年から中央区銀座のビル屋上で、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト、中央区、銀座 Blossam(中央会館)の3者による協働事業「銀座 Blossam・ビーガーデン・プロジェクト」が実施されています。

コーディネート機関として、NPO サポートセンターが、立場の違うそれぞれの想いの実現に向けてサポートしています。

銀座ミツバチプロジェクトは、都市の屋上緑化をすすめ、銀座を中心にミツバチが集まる環境づくりを通じて、都市緑化による環境教育に力を入れており、地域の子どもたちに屋上のビーガーデンを開放して花の苗植え体験を行いました。

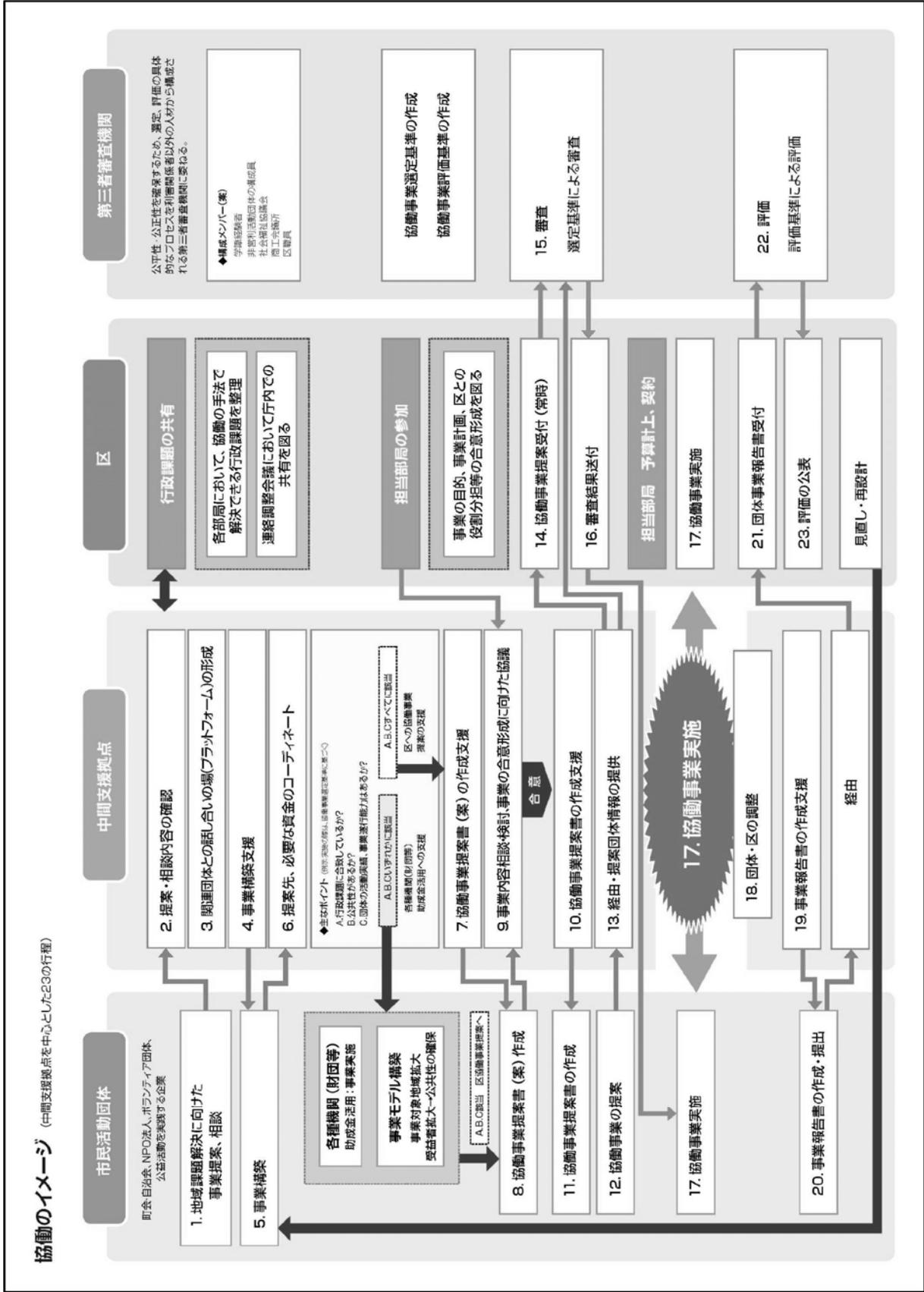
中央区の指定管理を受けている銀座 Blossam(松屋アターブル)は、同館の屋上ビーガーデンの花から採取された蜂蜜を使用した商品企画(結婚式の引き出物など)や、収穫した野菜をサラダにするなど、企業のイメージ戦略としても検討してきました。中央区は、屋上緑化による都市環境構想の実現等をめざしています。

それぞれの想いをマッチングさせ、地域密着による協働事業を開始するに至っています。



子どもたちによるバンジーの苗植え

中央区の協働のイメージ図



第2章
銀座ビル屋上発
協働で広がる学びの輪



第2章 銀座ビル屋上発 協働で広がる学びの輪

本事業では、中央区の協働提案事業の実施を見据え、中央区を拠点に活動する4つのNPO団体が核となって「ACA コンソーシアム」を構成し、中央区やその他のさまざまな資源と連携して事業を実施しました。今後の協働提案の実現につなげるなど、地域における協働のシステムの定着化を図っていきたいと考えています。

「ACA コンソーシアム」

構成団体：特定非営利活動法人 NPO サポートセンター
特定非営利活動法人キッズドア
特定非営利活動法人銀座ミツバチプロジェクト
特定非営利活動法人フレンドシップキャンプ

都心型協働のシステム構築を目指して

きっかけは、インターンシップ事業

NPO サポートセンターが、NPO の組織基盤強化として実施している「Panasonic NPO サポート・インターンプロジェクト」(共催：パナソニック株式会社)に中央区の3つのNPO団体が参加したことがきっかけとなり、「お互いの力をだしあって、地域でなにかやりたい、やろう!」という思いが高まり、一気にACA コンソーシアムを構成することになりました。

「ACA」は、各団体の得意分野、Agriculture=農業、Children=子ども、Art=芸術の頭文字をとって名付けました。

協働のシステムづくりにむけて

中央区をはじめ複数の団体・企業、機関と連携することで、都市空閑を活用したこれまでにない「協働による実践的な生涯学習の場」を展開し、人材育成を行うとともに、今後、地域に定着するための協働システムとして第一歩を踏み出しました。

各団体の得意分野、専門性を活かし、農業・環境・子ども・アート活動をテーマに「都市農園ふれあいマイスター」養成講座、「花とミツバチの絵コンクール」写生会及び絵画展・表彰式を開催しました。定期的に会議を開き、企画・運営のアイデア出しから運営における役割分担をしながら進めたことで、団体間の連携や、区の教育委員会、地域推進室はじめ、区内の小学校や企業等、新たな関係性を築くことができました。

今回築いた関係性を強化し、広げながら、今後の地域連携の仕組みとして、NPO と行政や企業、そして市民である生活者とのネットワークで構築する「都心型協働社会」の実現に向けてさらに活動の幅を広げていきたいと思えます。

「ACA コンソーシアム」構成団体



特定非営利活動法人
NPO サポートセンター

多様な市民活動の発展に向けた基盤整備を推進し、NPO による新しい社会システムの構築を目指します。中間支援組織として、政策提言活動、NPO の人材育成・組織基盤強化、調査研究活動ほか、多様な活動を展開。全国の NPO 支援センターと連携する全国連絡会も主宰しています。



住所：東京都中央区銀座 8-12-11 第2 サンビル
URL：http://www.npo-sc.org/



特定非営利活動法人
キッズドア

「日本の子どもをもっと元気に！」をミッションに、どんな境遇にいる子どもでも夢や希望が持てるように、企業や行政、他の NPO と連携しながら、ワークショップや体験活動、イベントを開催したり、HP での情報発信を行っています。



住所：東京都中央区日本橋 3-2-14
日本橋 KN ビル 4F
URL：http://www.kidsdoor.net/



特定非営利活動法人
銀座ミツバチプロジェクト

銀座を愛する有志によって立ち上げられた、銀座ミツバチプロジェクト。銀座のビルの屋上でミツバチを飼っている NPO 法人です。このプロジェクトはミツバチの飼育を通じて銀座の環境と生態系を感じるとともに、人と自然が共生する街づくりを目指して活動しています。



住所：東京都中央区銀座 1-20-15 前田山陽ビル
アグリクリエイティブ内
URL：http://www.gin-pachi.jp/



特定非営利活動法人
フレンドシップキャンプ

「自分でできることは自分でする。できないことは助け合う社会」，“自立型共生社会の実現”を理念に、青少年の健全育成とボランティアリーダーの育成を事業目的とした、夏のキャンプ事業の企画運営を行っています。



住所：東京都中央区日本橋堀留町 1-5-7
ユービル 4F
URL：http://www.npo-fc.or.jp/

事業概要

本事業は、「都市農園ふれあいマイスター」養成講座、「花とミツバチの絵コンクール」写生会、絵画展・表彰式を通じて、地域に根ざす仕組みづくりにむけて展開しました。

1 「都市農園ふれあいマイスター」養成講座 銀座で考える“都市農園とふれあい環境教育”

地域で継続的に農園の維持・管理等の活動に関わる人材を育成。全回参加した受講者には、「都市農園ふれあいマイスター」認定証を授与しました。今後の活動実践の機会を提供していきます。

< 講座内容 >

- 第1回 2009年9月16日(水)
都市環境と都市空閑活用による農園について[1]
「農薬に頼らない野菜づくり」
- 第2回 2009年9月30日(水)
子どもとのふれあい&体験活動の効果とコツ
「日本の子どもを支援する！」
「生物の命を子どもに伝える」
- 第3回 2009年10月7日(水)
都市環境と都市空閑活用による農園について[2]
「屋上農園の管理作業のポイント」
- 第4回 2009年10月14日(水)
花とミツバチと都市環境を学ぶ
「ミツバチがつなぐまちづくり」

2 「花とミツバチの絵コンクール」写生会 2009年10月1日(土)

銀座ブロッサムで、中央区在住・在校の子どもたちを対象に「花とミツバチの絵コンクール」写生会を開催しました。

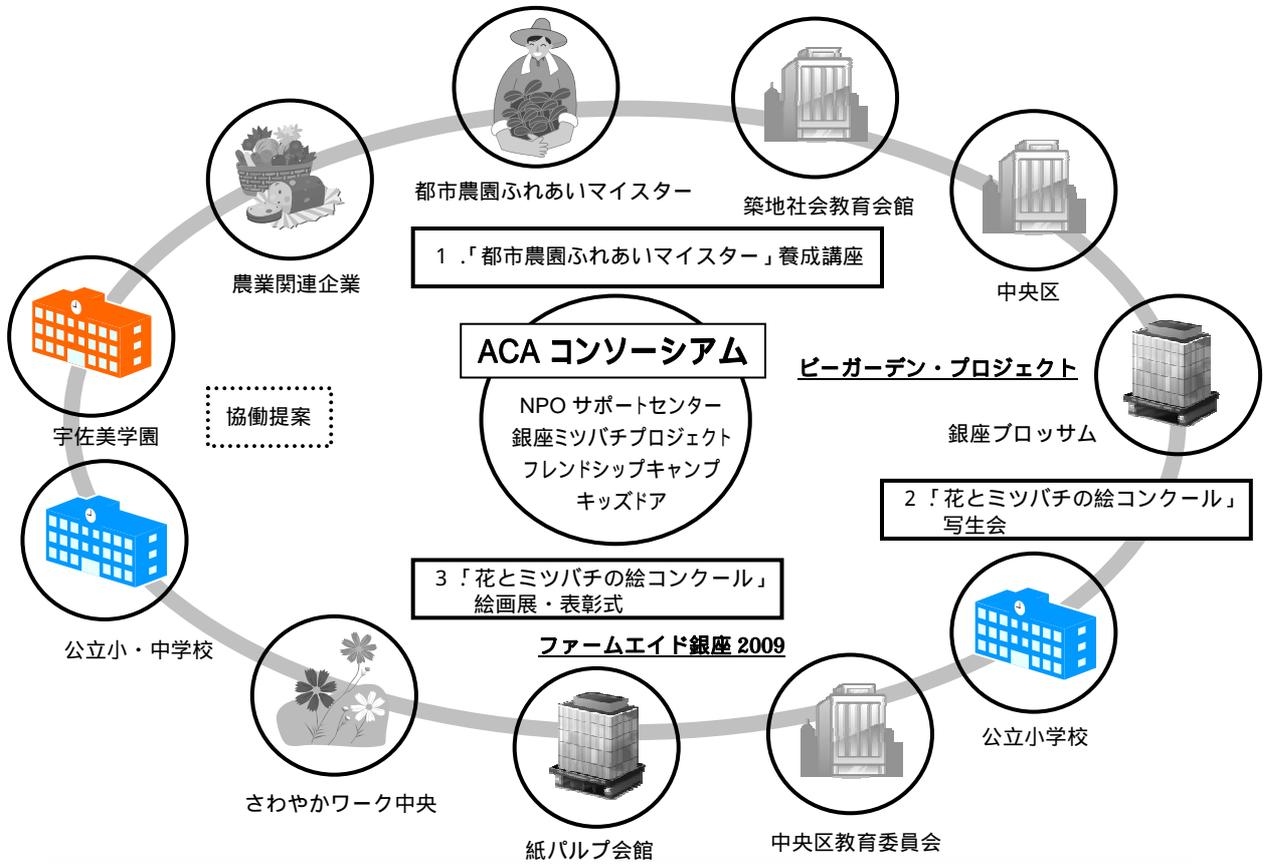
また、「都市農園ふれあいマイスター」養成講座の受講者の実践の場として提供しました。

3 「花とミツバチの絵コンクール」絵画展・表彰式 2009年11月29日(日)

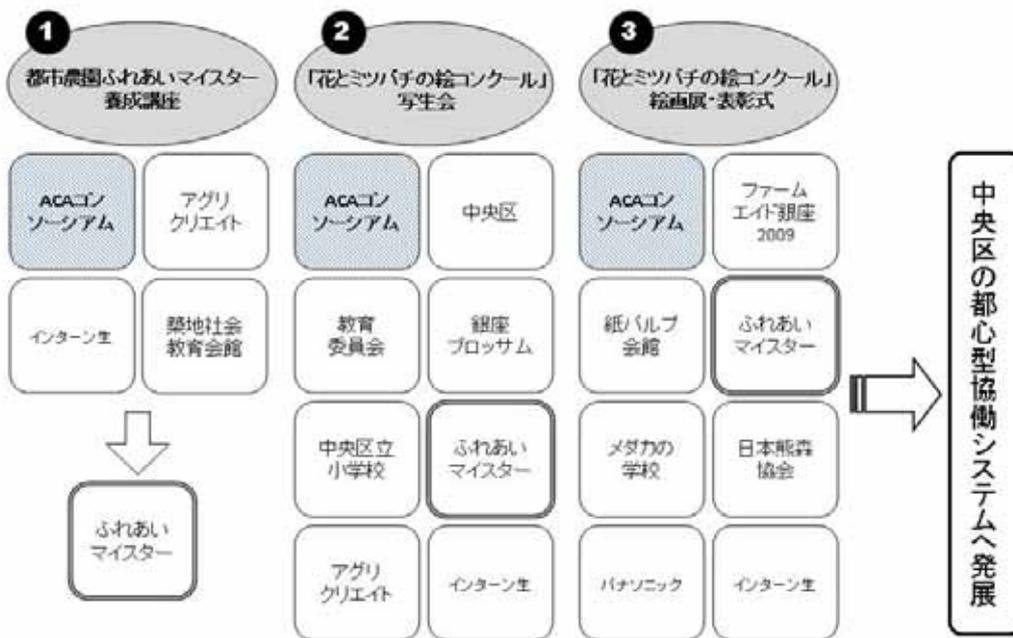
写生会で子どもたちが描いた「花とミツバチ」の絵に加え、全国から「花とミツバチ」をテーマに作品を公募し、銀座ミツバチプロジェクトが主催している「ファームエイド銀座 2009」の協力により、「花とミツバチの絵コンクール」の絵画展と表彰式を実施。

「都市農園ふれあいマイスター」認定者も運営補助として活躍しました。

「ACA コンソーシアム」を取り巻く中央区の資源



協働事業のカギとなる資源



1

「都市農園ふれあいマイスター」養成講座

銀座で考える“都市農園とふれあい環境教育”

地域のふれあいマイスターの養成

「都市農園ふれあいマイスター」養成講座は都市における“農業”、“子どもとのふれあい”、“アート”を学び、地域で活動するマイスターの養成を実施しました。

講座全4回に参加した方には、「都市農園ふれあいマイスター認定証」を授与し、今後、ACA コンソーシアム関連団体のイベントや連携する地域プロジェクトで活動する人材として7名のマイスターが誕生しました。

期 間：2009年9月16日（水）～10月14日（水） 18:30～20:30

会 場：築地社会教育会館

< 講座内容 >

第1回 9月16日	都市環境と都市空閑活用による農園について[1] 講師：高安和夫 銀座ミツバチプロジェクト理事長 アグリクリエイト取締役 東京支社長
第2回 9月30日	子どもとのふれあい&体験活動の効果とコツ[1][2] 講師：渡辺由美子 キッズドア代表 生田與克 フレンドシップキャンプ理事/築地魚河岸「鈴与」三代目
第3回 10月7日	都市環境と都市空閑活用による農園について[2] 講師：高安和夫 銀座ミツバチプロジェクト理事長 アグリクリエイト取締役 東京支社長
第4回 10月14日	花とミツバチと都市環境を学ぶ 講師：田中淳夫 銀座ミツバチプロジェクト副理事長 紙パルプ会館 常務取締役

地域活動の実践につながる講義

講座ではそれぞれの団体の得意分野を活かし、マイスターに必要な知識・心得を伝授。

農業分野は銀座ミツバチプロジェクトと有限会社アグリクリエイトが担当。「都市空閑を活用した屋上農園の管理」については、将来、「銀座のビルの屋上が里山の棚田のように緑であふれる」という大きなビジョンに共感するマイスターの育成を視野に入れ、具体的な説明を行いました。花や野菜の成長に必要な肥料や、屋上農園の管理等、スタッフの現場の声を織り交ぜながらの本格的なノウハウ説明に、受講者は熱心にメモを取り続けていました。

子ども・アート分野は、キッズドアとフレンドシップキャンプが、それぞれ違う視点から子どもたちの現状を解説。「花とミツバチの絵コンクール」写生会、絵画展・表彰式の実践の場で活動するための“子どもとのふれあうコツ”を学びました。

農業、子ども、アートなど多様な活動に参画するためのマイスター養成講座となりました。

第1回
9/16都市環境と都市空閑活用による農園について[1]
農薬に頼らない野菜づくり高安和夫 | 銀座ミツバチプロジェクト理事長
アグリクリエイイト取締役 東京支社長

高安和夫氏は、NPO 銀座ミツバチプロジェクトの理事長の他、有機栽培あゆみの会の物流部門などを担っている有限会社アグリクリエイイトの東京支社長でもあり、農業分野の専門家として活躍しています。今回は、無農薬の切り口から、都市空閑を活用した屋上での農園づくりについて、具体的な事例と自身の経験を交えながら、わかりやすく説明しました。

ビーガーデン・プロジェクト

銀座ミツバチプロジェクトは、銀座3丁目の紙パルプ会館の屋上で養蜂活動を行っています。また、銀座のビルの屋上にミツバチたちが安心して蜜を吸いに立ち寄ることができる「ビーガーデン」活動を、現在10ヶ所の銀座のビルの屋上で取り組んでいます。



枝豆収穫中の白鶴酒造ビーガーデン

「ビーガーデン・プロジェクト」に賛同して活動に参加している、銀座ブロッサム、白鶴酒造、松屋銀座、東京画廊などの屋上の菜園や花壇が紹介されました。枝豆

を栽培している白鶴酒造のビーガーデンでは、銀座のママさんも着物姿で収穫作業に参加していました。収穫した貴重な「銀座産の枝豆」としてお店で提供するなど、受講者のみなさんは銀座の屋上がかきれいに緑化、農園化されていることや、予想外の地域とのつながりに驚き、興味津々の様子でした。

「ビーガーデン」で採れたハチミツは、銀座のデパートや洋菓子店、カフェ等で使用され、銀座の新しい特産品として愛されています。

ビーガーデンはなぜ無農薬か

「ビーガーデン」において大切なことは、農薬を使わないことです。環境指標動物でもあるミツバチは、少量の農薬でも死んでしまいますので、ミツバチが元気に飛べる環境は人間にとっても素晴らしい環境ということになります。



銀座の屋上に広がる菜の花

そこで、「ビーガーデン」を無農薬で運営するために重要になるのが“肥料”です。農薬に頼らない野菜づくりのカギとなる肥料設計の重要性を解説しました。

実際の農園管理に役立つ、肥料の与え方やタイミングなどの専門的な知識について、図や写真を交えながらのわかりやすい説明があり、受講者のみなさんは熱心にノートに書き込んでいました。

第 2 回

9/30

子どもとのふれあい&体験活動の効果とコツ[1]

日本の子どもを支援する！

渡辺由美子 | キッズドア代表



「日本の子どもの支援」がミッションのキッズドア。昨年国際フォーラムで実施した「丸の内キッズフェスタ 2009」の楽しそうな子どもたちの映像を紹介し、参加者を惹きつけ、次に日本の子どもたちの貧困の現状を伝え、興味や問題意識を呼び起こしました。

日本の子どもの現状と支援の必要性

日本の子どもの貧困は先進国の中では高い率を示しており、高額な教育費用が原因で生じる教育格差の問題など、近年の日本の子どもを取り巻く現状についての説明がありました。



講義を熱心に聴く受講者の皆さん

子どもと“ふれあうコツ”

テレビの影響や、地域のつながりの稀薄化により、昔に比べてコミュニケーション力が低下している子どもたちと“ふれあうコツ”は、子どもたちの安全を最優先する、守ってほしいことは叱らずにきちんと説明する、の2点です。ポイントを挙げた語りかけに、教室中が優しい雰囲気になりました。

第 2 回

9/30

子どもとのふれあい&体験活動の効果とコツ[2]

生物の命を子どもに伝える

生田與克 | フレンドシップキャンプ理事
築地魚河岸「鈴与」三代目



フレンドシップキャンプの中心事業である、都会の子が「自然」と「人」とふれあう体験型キャンプ「自然とふれあおう！ わんぱく KIDS」の紹介を通じて、体験学習の必要性について、笑いを交えながら熱く語りました。

体験を通じて伝える

子どもたちに、「人間は他の生物の命を頂いて生きている」ということの理解と感謝を感じてもらうために、鰯の干物づくり体験などを行うキャンプ事業。静岡県の中央区立宇佐美学園で10年間実施しています。そこでの子どもたちとの“ふれあうコツ”は、ケガをするかもしれないが子どもたちに挑戦させる、子どもたちと真剣に向き合うためには叱り、怒る。



干物づくりに真剣な子どもたち

二人の講師から、「子ども」という共通のテーマでも、それぞれの違った視点の“ふれあうコツ”を学び、楽しさと難しさを考えさせられる面白い講座となりました。

第3回
10/7

都市環境と都市空閑活用による農園について[2]
屋上農園の管理作業のポイント

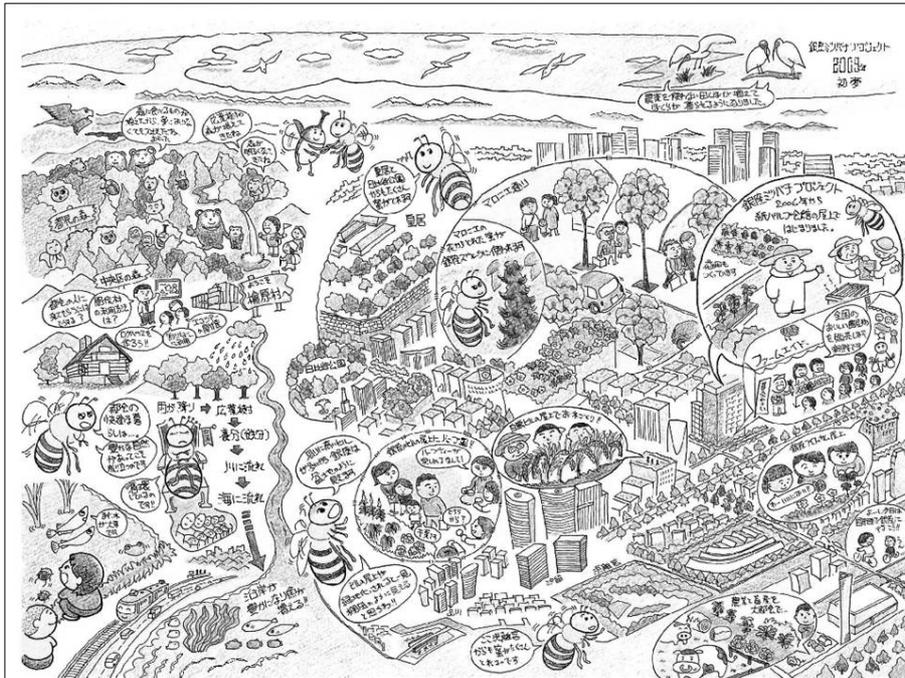
高安和夫 | 銀座ミツバチプロジェクト理事長
アグリクリエイイト取締役 東京支社長



第1回に引き続き、「都市環境と都市空閑活用による農園について[2]」では、銀座ミツバチプロジェクトの大きなビジョン、そして屋上農園の管理方法の手順を丁寧に説明しました。

「銀座里山計画」

はじめに、銀座ミツバチプロジェクトの活動のビジョンとなる「銀座里山計画」のイメージ図をもとに、都会と地方の里山が連携し、環境保全活動を進めている壮大な計画を語りました。そこでは、ビルの屋上にミツバチも安心して立ち寄ることのできる花畑が広がり、ビルの屋上があたかも緑豊かな里山の棚田のような夢のあふれる風景が広がっています。



屋上農園の管理について

「ビーガーデン」を例にしながら、屋上農園での野菜づくりの具体的な管理方法の手順について、苗の定植方法、種蒔き方法、日常の手入れなど、写真を交えながらわかりやすく説明がありました。また、防虫対策や病気対策、鳥対策についての工夫など、屋上農園の管理方法について必要な内容の全体像をつかむことができました。



受講者の質問に答える高安氏

2回の講座を通じて、屋上農園を管理するノウハウなどの全般を学び、今後のマイスターの活動にスムーズに携わるための第一歩となりました。

第4回
10/14

花とミツバチと都市環境を学ぶ ミツバチがつなぐまちづくり

田中淳夫 | 銀座ミツバチプロジェクト副理事長
紙パルプ会館 常務取締役



銀座ミツバチプロジェクト 副理事長の田中淳夫氏が、ミツバチを中心に動き始めた銀座のまちづくり、人との出会いについて、これまでの活動を振り返りながら、マイスターの活動につながる今後の展望を熱く語りました。

ミツバチとの出会い

ひよんなことから、紙パルプ会館（銀座3丁目）の屋上でミツバチを飼うことになったことで、地域とのつながりが始まりました。採蜜などの活動は、たくさんのボランティアの協力によって支えられています。



屋上で採ミツ後に記念撮影

飼うにあたっては養蜂家の先生の指導のもと、風避けの柵を設置したり、巣箱周辺にミツバチが起き上がりやすいように人工芝を敷いたり、屋上でミツバチを飼うための工夫をしました。「とりあえず、3カ月……」ということで、田中氏は東京都養蜂組合の会員にもなりましたが、思いもしなかった広がりを見せ、今年で4年目を迎えています。

銀座産のハチミツを全国に発信

休憩時間に「銀座産のハチミツ」のテイスティングも行いました。それぞれ採蜜した時期の違う西洋ミツバチの蜜や、日本ミツバチの蜜、また、花の種類によっても異なる色や味の違いを楽しみました。

採れたハチミツは、松屋デパートと連携してハチミツを使ったお菓子の販売、文明堂やタリーズコーヒーなど、銀座のお店でも活用されています。

また、銀座ミツバチプロジェクトが多くメディアに取り上げられることにより、同様の取り組みが都心部や地方でも増えています。都心と地方とつなぐきっかけにもなっており、銀座から発信するミツバチブームは、全国で様々な広がりを見せています。

「都市農園ふれあいマイスター」認定者のコメント



小笠原メリアンさん

銀座のミツバチに興味を持って、受講しました。私自身とは異なった業界の方々による体験談などを臨場感いっぱい聞くことができ、貴重な勉強をさせていただきました。

This course awakens you to deeper knowledge of the importance and fulfillment of growing vegetables in the city. This is for anyone who cares about planet earth.

2 「花とミツバチの絵コンクール」写生会

日 時：2009年10月1日（木）
 10:00～14:00
 会 場：銀座プロッサム
 内 容：ワークショップ、写生会
 対 象：小学生
 （小学1～3年生は保護者同伴）
 参加人数：20名（保護者含め約40名）

「都市農園ふれあいマイスター」 実践の場

10月1日の都民の日に、銀座ミツバチプロジェクトと中央区、銀座プロッサムが協働で運営している「銀座プロッサム・ビーガーデン」の協力により、「花とミツバチの絵コンクール」写生会を開催。当日は、台風の合間の晴天に恵まれ、親子で楽しい一日を過ごしました。

講座で養成した「都市農園ふれあいマイスター」が4名参加し、講義で学んだミツバチの飛び交う花畑や屋上緑化の様子を

現場で確認しながら、ワークショップや写生会のサポートをしました。普段は開放されていないビルの屋上で、子どもたちとふれあいながらの楽しい実践の場となりました。

銀座の屋上で「花とミツバチ」に出会う

子どもとアートを得意とするキッズドアが、「花とミツバチの絵コンクール」のコンセプトのチラシの作成を担当し、中央区の小学校にチラシを配布しました。また、中央区と中央区教育委員会の後援をいただき、中央区内の広報活動が迅速に行なうことができたこともあり、定員を超える参加申込みがありました。

当日は、絵を楽しく描くためのアート・ワークショップや、ミツバチに関するクイズ形式のお話、さらに「ビーガーデン」で採れたハチミツの試食、植物の紹介など、子どもたちに楽しんでもらえるようなプログラムを用意しました。

天気にも恵まれた銀座の屋上で、お気に入りの場所にレジャーシートを敷いた子どもたち、思い思いに「花」と「ミツバチ」を見つめ、色とりどりの「花とミツバチの絵」を描きました。作品は、絵画展に出品しました。



「花とミツバチの絵」ワークショップ

講師 山本なおこ 銀座ミツバチプロジェクト
高島久美子 ワークショップデザイナー



「花とミツバチの生態系のお話」

写生会の前に、ワークショップで雰囲気づくり。銀座ミツバチプロジェクトの山本なおこさんから「花とミツバチの生態系のお話」がありました。蜂は近づくと危ないというイメージがありますが、ミツバチは近くで見ても大丈夫！安全で、可愛いということを理解してもらうために、クイズ形式で楽しみながら学びました。

山本さんは、国内外の様々なハチミツを集めています。ミツバチの生態や他の昆虫や野菜が成長するためには、ミツバチが飛び交うことで受粉されるという重要な役割となっていることを子どもたちに伝えました。

またクイズ形式で、銀座のミツバチがどんな花に訪れるのかを問いかけたり、子どもたちと一緒に、親子で盛り上がるワークショップになりました。



花とミツバチの生態系のお話

クイズの中で紹介したミツバチが、銀座の周辺の花から集めたハチミツを試食してもらくと、子どもたちの笑顔があふれ、ワクワクした思いで屋上のビーガーデンに向かいました。



お楽しみのおまいハチミツの試食

「花とミツバチの絵」を描くために大切なこと

はじめて銀座の屋上に入った子どもたちは、ミツバチがブンブン飛び交い、可愛い草花で広がった風景に目を輝かせました。

ワークショップデザイナーの高島久美子さんを中心に、「銀座プロッサム・ビーガーデン」



はじめてビーガーデン入る子どもたち

の草花の紹介や、ミツバチを探しながら一緒に回ったり、絵を描いている子どもたちの手を取りながら画材の説明もしました。

子どもたちは思い思いに「花とミツバチの絵」を描き始めました。

4名の「都市農園ふれあいマイスター」は、子どもたち一人ひとりのそばに寄り、声をかけて励ましていました。

「花とミツバチの絵」写生会

アドバイザー 高畠久美子 ワークショップデザイナー
堀部紀子 アートワークコーディネーター



ミツバチを探しながら絵を描く位置を移動する子。きれいに咲いている花のそばを選んで座る子、保護者として参加したお父さん、お母さんと相談してレジャーシートを敷く子、思い思いのお気に入り場所を見つけ、子どもたちは、銀座の屋上で自然を感じながらゆったりと「花とミツバチの絵」を描きました。

それぞれ使いたい画材を用意し、花の色を本物に近づけようとこだわって色を混ぜたり、クレヨンと絵の具で奥行きのある表現を出したり、ミツバチの触覚の形をじっくり観察して細い線で描いたり、飛んでいる羽の様子を動きのある表現にしたり……。図鑑やインターネットからは得られない多くの情報を感じとったようです。「花」と「ミツバチ」と真剣に向き合うことで、いろいろな表現の工夫や個性が表現され、銀座の屋上で20枚の素敵な「花とミツバチの絵」が色とりどりに咲きました。

子ども向けにアート・ワークショップ活動をしている堀部紀子さんは、「同じ花でも写真



どんな絵を描いているのかな？

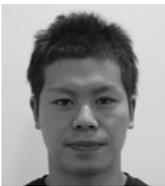
で見たのと、実際さわったり匂いをかいだりした体験が伴うものとはまるで違います。触れるとそれが好きになり、好きになるほど、自分が好きな部分を表現したいという気持ちになり、一生懸命絵を描きます。子どもたちにできるだけたくさんものに触れ、好きになる体験をさせていってあげたいと感じました。」と、語ります。

当日は「都市農園ふれあいマイスター」や、ACAコンソーシアム構成団体のインターン生もお手伝いに参加。地域の子どもたちや親、ボランティアや参加者どうしが交流しながら、新しい気づきや豊かな時間を共有することができました。

インターン生のコメント “子どもとのふれあい” を通じて



根木弘邦 | フレンドシップキャンプ インターン
「花とミツバチ」写生会などを通し、子どもたちに自然とゆっくり触れ合う時間を提供できたことを、嬉しく思っています。今後も今回の経験を生かし、子どもたちに刺激のある時間を提供していきような活動をしていきたいです。



宗塚 誠 | キッズドア インターン
花畑全体を描く子、ハチ単体を描くといったように子どもがそれぞれ別々の視野で描いていることに感銘を受けた。想像力というものは頭の中で考えるものではなく、まずは描いてみることで、さまざまな発想がうまれるということ子ども姿から再発見した。私自身もこの経験を通じ貴重な時間を過ごすことができた。このような機会を今回だけで終わりにするのではなく、継続して実施することを期待したい。

3

「花とミツバチの絵コンクール」 絵画展・表彰式

日時：2009年11月29日（日）
会場：ファームエイド銀座2009
表彰式参加者：
受賞者と保護者含め50名

色あざやかな「花とミツバチの絵」
写生会で描いた「花とミツバチの絵」に加え、全国の保育園・幼稚園児から中学生までのみなさんから多数の応募作品があり、「花とミツバチの絵コンクール」絵画展・表彰式を開催。マイスターも絵画展・表彰式のサポートをしました。

「花とミツバチの絵コンクール」 絵画展・表彰式

明るく楽しい絵が多く、コンクール・アドバイザーの高畠さん、堀部さんを中心に悩みながら審査をすすめました。審査会には、「ACA コンソーシアム」の各団体、「ファームエイド銀座 2009」の協賛団体も参加し、時間をかけて受賞作品を決定しました。

絵画展・表彰式は、物産展や、環境をテーマのシンポジウム、ワークショップを開催する「ファームエイド銀座2009」の会場（紙パルプ会館）で開催。来場者や地域の人々はもちろん、銀座の買物客など、多数の方々に鑑賞してもらう機会となりました。表彰式には協賛団体も加わり、協働の輪がさらに広がりました。



入賞作品は web サイトでも展示しています。
<http://www.kidsdoor.net/style/hanatomitu.htm>

平成21年度 文部科学省「NPOを核とした生涯学習活性化事業」

ミツバちをテーマにしよう！

第2回
花とミツバチの絵コンクール

花とミツバチの絵をかいて応募してね！

応募概要

- 応募資格 高校生以下
- 応募作品 花とミツバチ、又はミツバチのいる絵
- 作品のサイズ 四つ切りサイズ（380×540mm）以下
- 画材 絵の具・ポスターカラー・クレヨン・サインペンなど自由
- 受付期間 平成21年10月1日～10月30日（当日消印有効）
- 賞状および発表 最優秀賞1点、優秀賞、特別賞等（各賞に賞状と副賞）

平成21年11月29日（日）に開催予定の「ファームエイド銀座2009」（紙パルプ会館）にて入賞作品の発表と作品の展示をし、キッズドアホームページに掲載いたします。（入賞者のみご連絡いたします）

○応募方法 学校などの団体でまとめてお送りいただく場合
各作品裏面に、団体名、名称、学年を記入の上、団体の名称、住所、担当者名、連絡先を明記してください。
○個人でお送りいただく場合
作品裏面に、お名前、学校名、学年、住所、電話番号を明記してください。

■応募先 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋 KNビル4F
キッズドア 花とミツバチ係
（お問い合わせは TEL: 03-5201-3899、FAX: 03-5201-3712、MAIL: info@kidsdoor.net）

*応募作品の著作権等は主催者に帰属します。また、作品は返却いたしません。
*応募された方の個人情報には、「作品の発表」、「入賞者への通知」、「作品展示」、「プレス発表」等に使用します。
*目的外の使用につきましては事前にご了承いただきます。
入賞作品の賞状書には入賞者への表記につきましては、個人名及び学校名を年組連帯署名のみといたします。

主催 ACAコンソーシアム、NPO法人NPOサポートセンター（愛知県）、NPO法人環境エッセイプロジェクト、NPO法人フレンドシップネットワーク（北海道）、キッズドア
協賛 パナソニック株式会社、JET-ON NICO、日本橋会館、NPO法人パルプ会館 編集 中央区、中央区教育委員会

遠くは名古屋から家族揃っての参加もあり、会場はたくさんの拍手であふれました。入賞した子どもたちには賞状とプレゼントの他、銀座産のハチミツ、パナソニック提供のTシャツを贈呈。アドバイザーからのコメントに、子どもたちの誇らしげな笑顔が印象的でした。



コンクールアドバイザーからのコメント

高島久美子さん

約1ヶ月の間に、北海道・名古屋・大阪と地方からの応募もあり、準グランプリの名古屋のお子さんはご両親と一緒に来場してくださり、感謝しました。それぞれの視点の違いから書き手の子どもの花とミツバチへの思いが伝わる暖かい作品群に出会えて、開催した喜びを深く味わえました。

堀部紀子さん

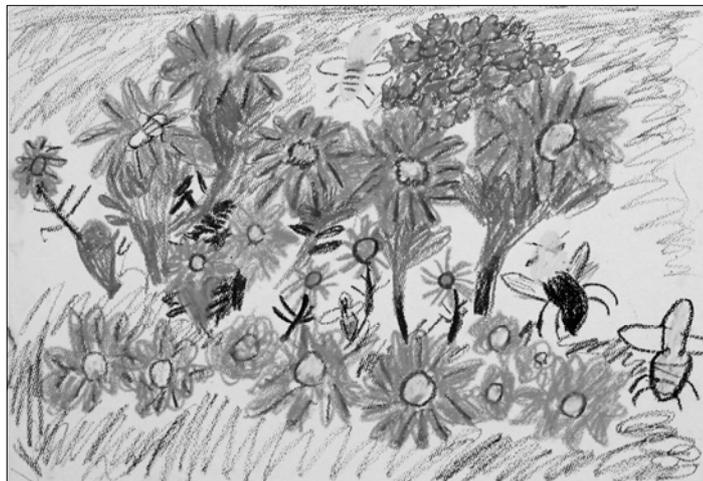
写生会参加者の作品は本物に触れた写生会ならではの作品、そのほかの作品はミツバチをキャラクター化したり個性豊かなものが多く、それぞれの持ち味がありました。表彰式ではたくさんの笑顔に出会え、今後も連携し、継続していきたいと思えます。



「花とミツバチの絵コンクール」入賞作品



特別賞（キッズドア賞）



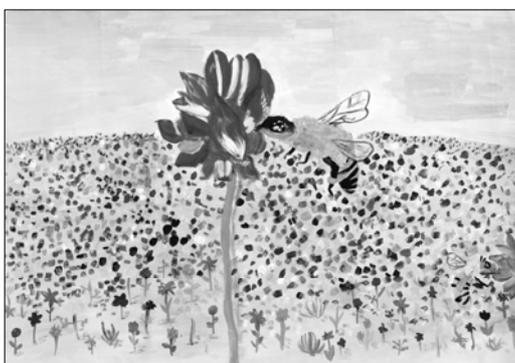
グランプリ



特別賞（メダカのがっこう賞）



特別賞（日本熊森協会賞）



佳作



特別賞（フレンドシップキャンプ賞）



特別賞（銀座ミツバチプロジェクト賞）



特別賞（NPO サポートセンター賞）



準グランプリ



佳作



佳作



佳作



佳作



佳作

インターン生のコメント

協働事業「ACA コンソーシアム」に参加して



開田ゆみ | 銀座ミツバチプロジェクト インターン
インターンプロジェクトがきっかけで、協働事業ができたことを嬉しく思います。それぞれの団体が協力し合うことで、今までできなかったことを実現することができました。私も準備段階から関わることができ、貴重な経験ができました。

第3章

協働のシステムを活かす

< 3つの協働提案 >



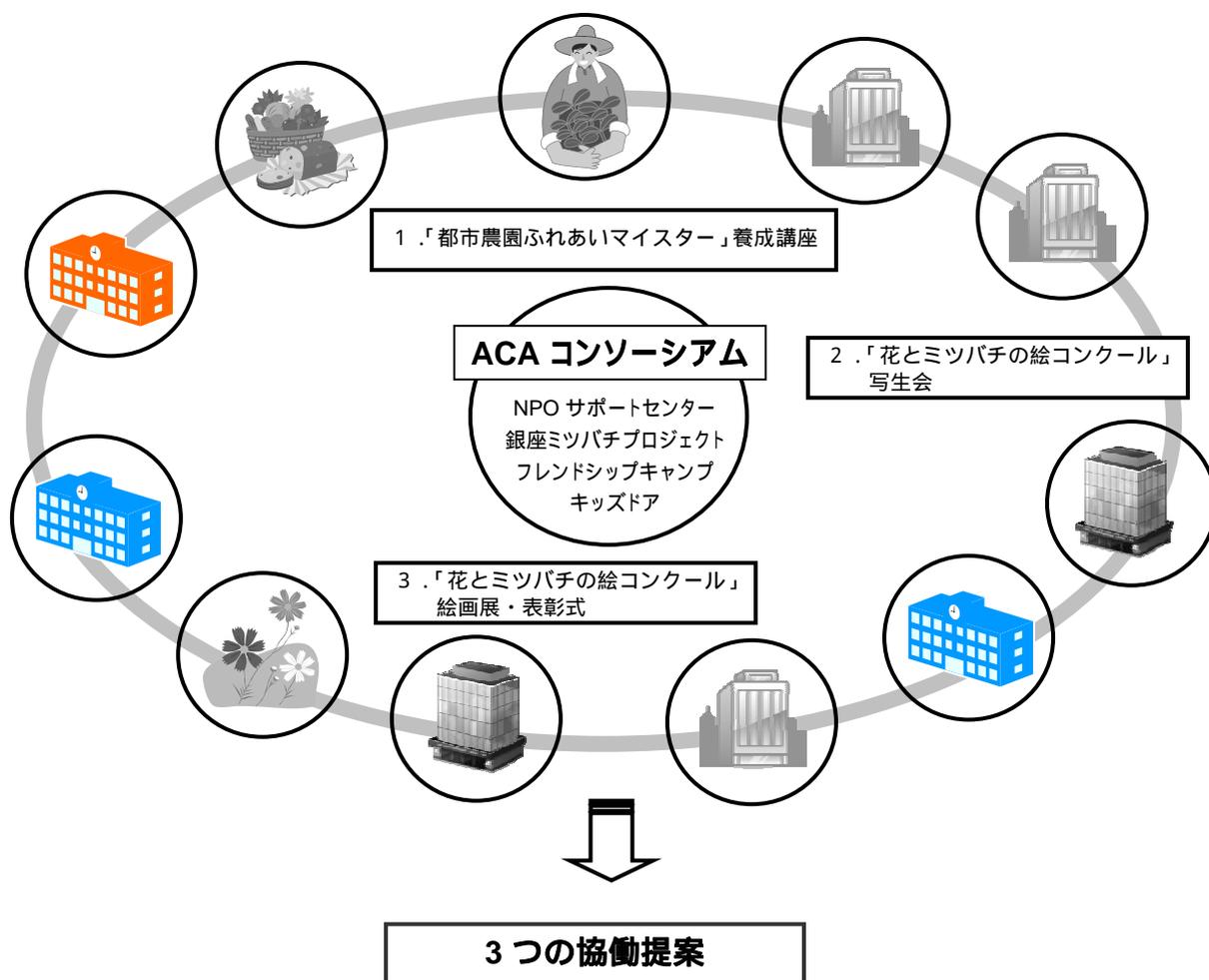
第3章

協働のシステムを活かす

< 3つの協働提案 >

本事業を通じて、多数の地域資源がつながり、地域で協働事業を展開していくためのシステムのベースが構築され、今後の新たな協働事業への第一歩とすることができました。

今後、このシステムを活用し、中央区の協働提案制度やさまざまな機会を通じて、「3つの協働事業」の実現につなげたいと思っています。さらに地域の団体や生活者を巻き込み、新しいコミュニティの創造を目指していきたいと思っています。



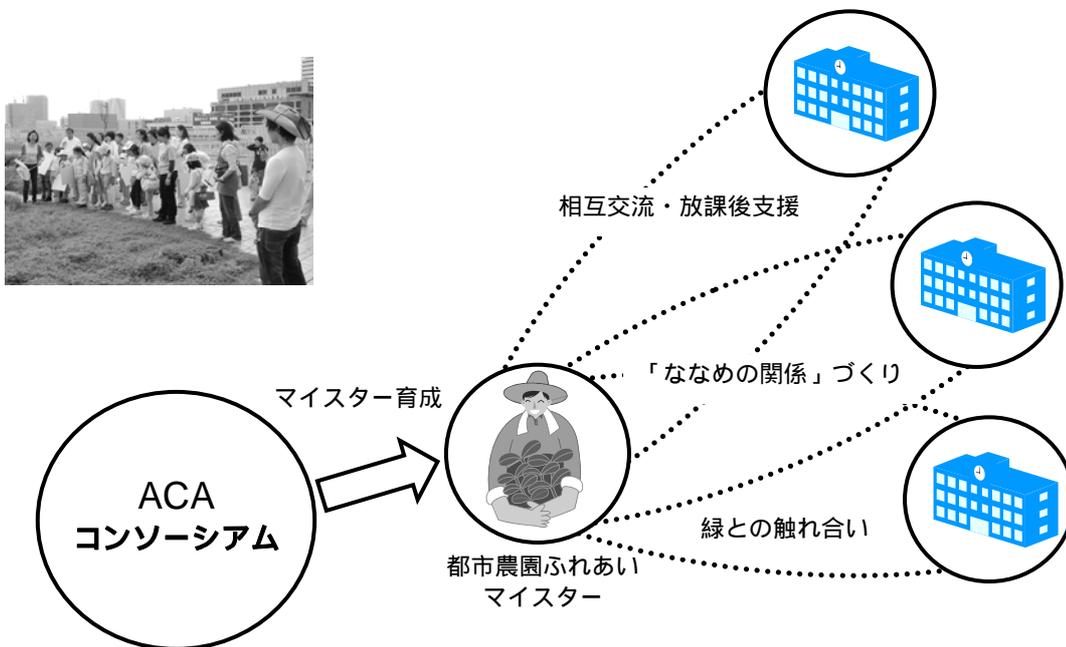
1. 公立小・中学校での「屋上菜園クラブ」事業

2. 障がい児（者）とともに、宇佐美学園での新しい友情の輪を築く

3. 「都市と環境をテーマにした絵画教室&絵画展」事業

協働提案 1

公立小・中学校での「屋上菜園クラブ」事業



放課後の課題

中央区の公立小・中学校の子どもたちの中には、放課後は塾通いなどで忙しく、自然や緑に触れる機会が少ない子どもたちも多いようです。一方、一部の家庭では、部活動への参加費用を支払うことができないため、部活動に参加できず、時間を持て余してしまう子どもが増えている現状もあります。

子どもたちの身近に自然をつくる

子どもたちに緑に触れてもらうことができる身近な環境をつくるために、また部活をあきらめた子どもたちの活動の場として、公立小・中学校の屋上の緑化を検討している中央区に、学校の屋上に畑をつくる「屋上菜園クラブ」を提案し、緑に触れる機会をつくりたいと考えます。

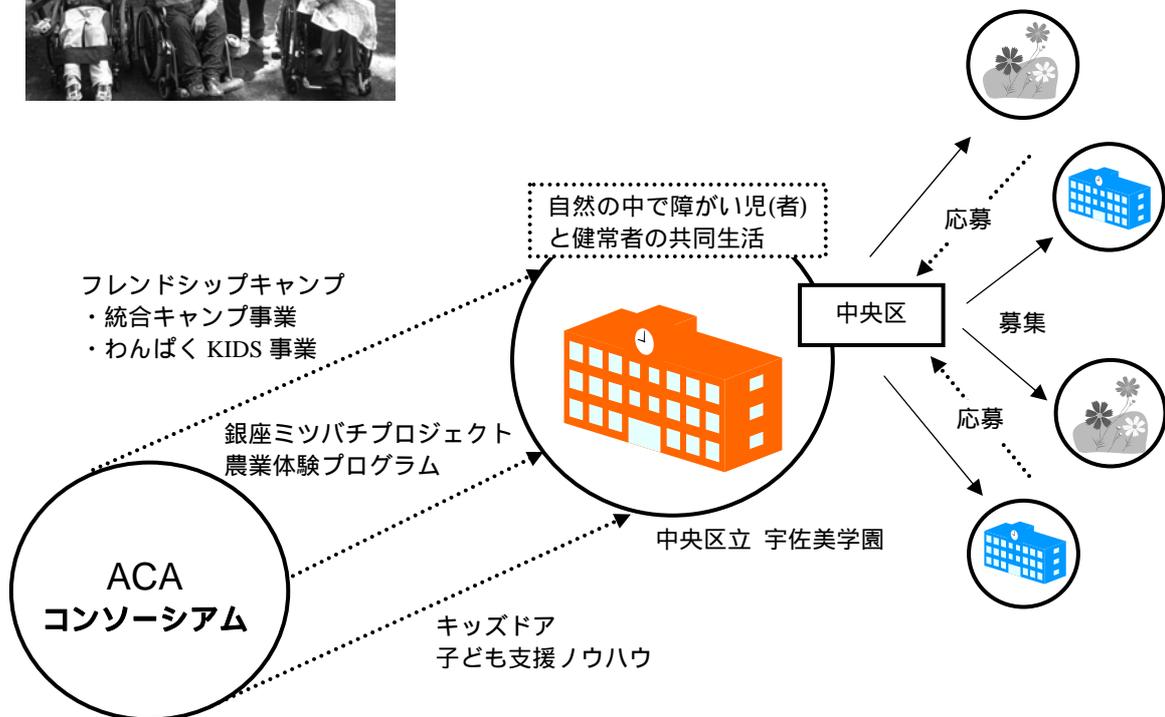
小・中学生にとっても、親でも先生でもない、「ななめの関係」としてボランティアの方々と接することで大変良い関係づくりとなります。

提案内容……中央区の子どもたちを農業で支援

- ・公立小・中学校から屋上緑化で畑をつくるモデル校を募集する。
- ・菜園の指導や管理を NPO が行う。
- ・農業の指導や畑の管理は、「ACA コンソーシアム」が養成する「都市農園ふれあいマイスター」等の農業ボランティアを組織し、小・中学生の部員に指導する。
- ・「ななめの関係」づくりを積極的に進めるための交流の機会を設ける。

協働提案 2

宇佐美学園で気づいて・築く 障がい児(者)と健常者が育む 新しい友情の輪



障がい児(者)が自然に触れる大切さ

健康管理と教育によって、子どもたちの健康改善の機会が提供される教育施設の「中央区立宇佐美学園」(静岡県伊東市)に、中央区在住の障がい児(者)が訪れる回数を増やし、自然に触れる機会を多くしたいと思います。

宇佐美学園で気づいて・築く

ACA コンソーシアムが、区との協働事業として、宇佐美学園を活用した障がい児(者)と健常者の共同生活を実施します。

自然あふれる宇佐美学園に、一人でも多くの中央区在住の障がい児(者)に参加してもらい、共同生活を行うことで、障がい児(者)と健常者がともに理解を深め、お互いの個性や違いを認め合い、尊重し合うことの大切さに触れる機会を提供します。

提案内容……宇佐美学園と周辺自然を利用した共同生活（キャンプ）

障がい児（者）と健常者が共に過ごすキャンプ事業を、中央区立宇佐美学園で実施。

日程：7月下旬～8月上旬（4泊5日）

参加者数：約100名

協働の実施体制

- ・フレンドシップキャンプは、宇佐美学園で毎年中央区在校在住の小学生を対象に実施している、「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」事業のキャンプ運営ノウハウ提供。
- ・銀座ミツバチプロジェクトは、農業体験プログラムを提供。
- ・キッズドアは、子どもたちの活動支援のノウハウ提供。
- ・中央区は、宇佐美学園の提供、障がい児（者）の参加者の募集。

協働提案3

「都市と環境をテーマにした絵画教室&絵画展」事業

事業規模拡大

「花とミツバチの絵コンクール」をさらに発展させ、地域に根付いたイベントになるのと同時に、都会と地方の環境活動の意識をつなげる。



提案内容……一人でも多くの人に参加のチャンスを提供

- ・中央区の小学校への出前授業等で、写生会の回数を増やす。
- ・銀座の各屋上ピーガーデンで写生大会実施。
- ・絵画展表彰式に当日に、ピーガーデン見学ツアーのプログラムを用意する。
- ・中央区在住在勤者を対象に大人の部（成人の部）写生大会、絵画展の開催。



平成 21 年度 文部科学省 「NPO を核とした生涯学習活性化事業」

事業報告書

< 銀座発 > 都心型協働システムモデル

発行：2010 年 3 月

発行者：特定非営利活動法人 NPO サポートセンター

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-12-11

TEL: 03-3547-3206 FAX: 03-3547-3207

URL: <http://www.npo-sc.org>

(禁無断転載)